

平成 20 年度 第 15 期第 2 回 池田市図書館協議会会議録要録

<日 時> 平成 21 年 3 月 22 日(日) 午前 10 時～正午

<場 所> 池田市立図書館 2 階会議室

<出席者> (委 員) たつみ会長、丸山福会長、尾上委員、富阪委員、彭飛委員、吉永委員、
雨堤委員、牛島委員、村上委員
(事務局) 馬渡生涯学習推進室長、長森図書館長、上保石橋プラザ館長代理、
他図書館職員 4 名

<傍聴者> 1 名

<審議案件> 1. 新年度予算及び施策について
2. 池田市立図書館における市民協働の具体的方策について
3. その他

<資 料> 1. 出席者名簿
2. 新年度主な予算
3. 図書館ボランティア関係資料
「池田市立図書館における市民協働の具体的方策について」
ボランティア養成講座レジュメ及び報告
4. 「図書館ニュース 3 月号」

会長：それでは第 2 回図書館協議会をはじめます。 先ず 1 番目の案件について事務局より報告をお願いします。

事務局：新年度予算について説明いたします。 先ず図書費ですが、平成 18 年度より 2,100 万円に増額して以来、21 年度もこれを維持しています。 他が軒並み削減されている中で、現状維持というのは大きいことだと思われま

す。 新規事業として駅前サービスポイント事業ですが、これは図書館協議会の答申の中でも最優先課題とされていたものです。 通勤者が多く、交通網が集中している阪急池田駅前に、予約本の受取りと本の返却のポイント開設を予定していますが、これによりある程度立地の弱点をカバーし、図書館サービスの拡充を図ることができるのではないかと考えます。

次に図書館費以外ですが、本館 1 階カウンター及びロビーの改修工事を行います。 1 階カウンターをロビー付近に移動します。 利用者が来館時に分かり易い場所となり、案内面の改善を図ります。 同時に 1 階と 2 階の図書室を統合し、資料配架の分かりにくさを解消します。

アルバイト賃金ですが、司書単価を設定し、アルバイト司書は日額 7,000 円から 9,200 円にアップします。

会長：何かご質問はありますか。

委員：アルバイト職員として単価は高いと思うし、日額が上がるのは良いことだとは思いますが、臨時雇用の中で図書館が一番専門性を求められる職種ですから、中長期的にみて不安定な雇用形態を見直し、嘱託職員、期限付き任用など今後検討していく必要があると思います。今すぐにどうこうできる問題ではないと思いますが、今後は是非考えていってほしいと思います。

事務局：池田市の雇用形態は、文化財関係を除き、非常勤はなくなりすべてアルバイト雇用になっています。図書館だけでなく、全庁的に考えていくべき大きな課題だと認識しています。

委員：1階と2階の統合というのは具体的にどういうことですか。

事務局：今までは1階と2階を、一般的な読み物系と専門書という分け方をしていましたが、今度の改築を機に、分野別に配架します。1階には児童書と一般書の文学、2階は文学以外の分野全てを配架し、利用者の混乱を解消できると考えています。

会長：では、2つ目の議題「池田市立図書館における市民協働の具体的方策について」に移ります。

事務局：平成20年8月に、図書館協議会の答申『翔べ「丘の上の図書館」 - 池田市立図書館への提言 - 』を受けました。今後は答申を踏まえ、図書館について長期計画の策定と共に、運営方針の明示、実践の段階に入ります。答申にあります5つの提言は、新年度予算の中でそれぞれ具体化が進んでいますが、提言の中の「市民がわくわくしながら集い、出会う図書館」に関連して、図書館と市民の協働による図書館づくりはこれからじっくりと取り組んでいく必要があります。現在図書館で活動する市民団体はおはなし会・障がい者サービス・布絵本グループ等8団体ありますが、いずれも個々の活動に特化したグループで、図書館サービス全体に関わる活動ではありません。また、図書館経営に市民の意見を取り入れる機会としましては、図書館協議会の他、カウンターでの利用者の声やメール、「市民の声(投書)」による苦情や意見などがありますが、組織だったものはありません。市民の目線で見ると、行政では気づかないことが見つかることも往々にしてあります。そのためには市民に図書館がどんな仕事をしているのか、先ず図書館を知ってもらうことも大切であると考え、今回「ボランティア講座」を開催しました。

事務局：講座では、茨木市「図書館友の会」代表の福山恭子さんをお招きし、ボランティアの考え方や活動についてお話をしていただき、その後図書館の案内、本の並び方等の説明し、実際に書架整理の体験をしていただきました。約25名の参加があり、今後ボランティア登録後、まず書架整理から始めていきます。その後、活動していく上でいろいろな活動を展開していき、最終的には友の会の結成につなげていければよいと考えています。

会長：中身を見ると、補助的なボランティアを募集したということですか。

事務局：今回は先ず図書館を知っていただくという意味で書架整理から始めようということにしました。いきなり何かを始めるとしても無理がありますので、まずこちらで準備をして参加してもらい、それでうまく行けば運営等に関してはボランティアの方たちにお任せしようと思います。順調にいけば、今既存の団体もありますので、各団体の代表者を出していただいて大きなボランティア組織を作っていただいて運営をしていただければと思っています。

会長：書架整理だけとは、仕事としては詰まらない仕事ですね。

事務局：一番やりやすいのが書架整理かと思います。それをとっかかりにして活動していく中で、やりたいことができれば活動範囲も広げていただけたらいいかと思います。

委員：整理をしながら、利用者と会話し、案内をする等一般の人と接点があれば、利用者も図書館へ行って楽しかったよと思ってもらえることもあるのではないかと思います。書架の整理ばかりではやりたくないですね。

委員：具体的にボランティアに何を求めているかが見えない。もうひとつは人数だけを集めると仲良しクラブのようになるんですよ。それよりも図書館を支えるボランティアというのであれば、もっとメニューを作って活動する場を与えないと、単なる書架整理だけではおかしいですよ。司書の領域を侵さないようにといいますが、司書の仕事を知らないんですよ。司書とボランティアが交流して、司書とはこういう仕事をしていますよ、場合によっては司書の仕事をサポートするくらいの能力を持つボランティアを育てるという明確な方向を見出さないとボランティアというものは続かないですよ。今ある団体は、さわる絵本とか障がい者サービスのような専門的なボランティアですが、図書館の運営に直接かかわるボランティアはないですね。そういうときに、自分たちが参画して自分たちでよりよい図書館を創るボランティア活動としていくところへ意識があれば、つまり参加することへの喜びを感じるボランティアならいいのですが、単なるお手伝いであるボランティアであれば続かないでしょう。やはり、どういうボランティア活動をしてくれるメンバーを必要にしているかを明示する必要があると思います。

事務局：養成講座の講師の方は、10年ボランティア活動をしてこられた方です。その方もまず、書架整理からおっしゃっています。そこからいろいろな方向へ発展させて行かれたのです。本が好きな方が集まってこられて、作業も楽しんでおられました。図書館も書架整理だけで終わってもらつつもりはありません。実際問題として、図書館もいろいろメニューを出したいのですが、そうすると官制がつくる自主性のないボランティアを作ってしまうことを危惧しています。図書館に都合のいい、アルバイト代わりになるボランティア組織になってしまうのではないかと恐れています。それでは将来的に図書館と市民との協働ではなくなってしまうのではないのでしょうか。最初は図書館を知ってもらう、つまり書架整理をしながら、図書館はこんな利用の仕方をされているということを知ってもらう、それから9月に改築を行います。これによって書架スペースに死角ができますので、見回りも兼ねてほしいですし、書架整理の合間に絵本の読み聞かせをしてもらってもいいし、また、布絵本

グループの方や文庫さんにキッズコーナーでお話をしてもらってもいいし、みなさんにお任せしますと言っています。多面的にしていってもらえばいいと考えています。そのとっかかりが書架整理なんです。運営の方法としては、自分たちでしていってもらえばいいのですが、とりあえずはこちらで日程表を作成したり、日誌を準備したりしています。実際おっしゃるのは確かなんですが、最初は大きな山をもうけたくない、何でもかんでも図書館がしきらないとできないムードを避けたい。

委員： 図書館が切実に市民を求めているかいいように利用しようとしているのかは、市民は分かるんですよ。官制主導型を恐れるよりは、市民に選択させればいいんですよ。図書館ボランティアっていうのが市民にはまだ分からないんですよ。書架整理でも、自分たちがやりたいときだけやるわけですよ。市民側の意識もボランティア活動に対する責任感もないところもあるんですよ。ですから図書館が具体的メニューを提示し、市民にもある種の責任感を持たせるようにリードしていくことが、ボランティア活動を進めていく上で大事ではないかと思えますよ。

事務局： 最初は書架整理から始めますが、やっていく内に図書館に必要なこと、こういうこともできるのではないかとか、気づくところも出てくるでしょう、その時にはまた一步一步ステップアップしていってもらえばいいかと思っているところです。

委員： 書架整理は図書館を知るという意味で第1歩でいいと思いますが、この募集は今回1回限りですか。

事務局： 現在の方たちの研修もしていかななくてはなりませんし、また来年新しい方の募集も並行してやっていきます。1年に1回くらいの更新に行こうと思えます。

委員： 市民のための寄付講座を設けるというのも今後は大事ですね。

事務局： ボランティアの方の中で、得意分野をお持ちの方もいらっしゃると思います。今回も申込用紙に記入欄を設けましたが、今後その得意分野を活かした講座開催ということも考えていくのもいいかなと思っています。

委員： 図書館は図書館でボランティアの意義や役割を期待されてるところがあるわけですね。ですから図書館でボランティアの要項などをまとめた方がいいと思います。市民と図書館が共有できる要項を作られたらどうでしょうか。司書とボランティアの役割を分けるとありますが、司書の役割とは何かということ自体はつきりしないこともあります。司書とボランティアの棲み分けをするというより、お互いにどういう役割が担えるのかということを整理していき、図書館とボランティアの役割分担を協議して、ボランティアの要項を一緒に作っていくのもいいのではないのでしょうか。

副会長： 段階的に進めていこうとするのはいいことだと思います。やっていく内にいろいろな方向へ発展していきます。ただ、職員とボランティアの間にあまり垣根を作らない、コラボ

レーションということを考えてやっていかないといけないのではないのでしょうか。一般市民に内側から見て図書館を理解するということが大事なことだと思います。

委員： 司書がボランティアに見られることによって、自分たちの能力を高めたり、市民は市民で司書を通じて図書館を理解したり、その意義を感じることができればいいのであって、いろいろな能力を持った人たちがボランティアとして参画してくるわけですから、その能力に応じて活動してもらうということがやはり必要でしょうね。それは司書が教えることと、ボランティア個々の人を知ることが大事です。

会長： 全体的な意見としては、司書の仕事とボランティアの間に境界を作らず、コラボレーションしては如何ですか、ということですかね。ボランティア同士のコミュニケーションも必要でしょうね。ペースメーカーのようにリードしてってくれる人ができればいいですね。それでは、意見も出つくしたようなので、次のその他に移ります。

事務局： 昨年の図書館まつりのカフェの売上金の使途について報告させていただきます。いただいた売上金でCDの修復機を購入させていただきました。ありがとうございました。

会長： それでは、この辺で終了いたします。次回の日程ですが7月の5日か12日に開催ということですのでまたよろしく申し上げます。